

第6次白老町総合計画審議会（第3回） 会議要旨

日 時：令和元年8月9日（金）15:00～16:30

場 所：白老町役場 第1委員会室

出席者：岡田委員長、中野副委員長、北平委員、野瀬委員、倉地委員、牧野委員、宇津宮委員、宇佐見委員
桑田委員 計9名

欠席者：笠井委員 計1名

事務局：【企画課】 工藤課長、温井主幹、安藤主任、金子主事、吉井主事 計5名

1. 開 会

2. 報 告

（1）まちづくりに関する標語入選作品報告について

○事務局から説明（資料1-1、資料1-2）

質疑なし

（2）まちづくり高校生アンケート結果報告について

○事務局から説明（事前送付資料 「白老町まちづくり高校生アンケート」調査結果報告書）

【岡田委員長】中学生アンケートと比べ、高校生アンケートの結果は厳しい結果になったと思う。

【牧野委員】町内居住者を、純粋な町内居住者と学生寮等の居住者の2つに分けて分析すべきではないか。

【岡田委員長】町内居住者のうち、半数以上が学生寮等である。学生寮等に住んでいる学生は、町のことを詳しく知らない。分析方法については自宅と学生寮等で分けたほうがいい。

【宇津宮委員】町内居住者の問11の選択肢に「まちづくり」とあるが、「まちづくり」は他の選択肢を包含する意味としても捉えられるので、もう少し具体的な表記が必要であったのではないか。

【事務局】アンケート内に具体例を示しているが、「まちづくり」という言葉から、都市基盤の整備を連想した回答が多かったのではないかと捉えている。今後は明確な表現を用いるよう検討したい。

（3）まちづくり町民意識調査結果報告について

○事務局から説明（資料2-1、資料2-2）

質疑なし

3. 議 事

（1）各種調査結果から見る傾向・キーワードについて

○事務局から説明（資料3）

【宇津宮委員】キーワードがいくつかあげられているが、今後重要となるのは、働く場の確保等の「産業」、長生きするための「健康」、高齢化していく中で困難となる日常の「買い物」だと考えている。キーワードの中に「郷土愛の醸成」とあるが、郷土愛はまちづくりの結果として醸成されるものであって、今後のまちづくりのキーワードとはならないのではないか。

【岡田委員長】郷土愛は町民自ら感じ取るもの。「郷土愛の醸成」というキーワードは、町民に対してその感情を押し付けているようにも感じる。キーワードの洗い出しについては、各調査結果の集約過程で精査が必要。

- 【牧野委員】資料3の自治分野について、町内会活動に対する満足度が前回より低下している理由を加入率の低下等としているが、町内会加入率は8割強と、他の自治体よりも高いため、加入率の低下が理由ではなく、加入者の高齢化が理由ではないかと思う。
様々なキーワードが出ているが、町として今後、若者を増やしていきたいのか、高齢者政策を充実させたいのか等、方向性を絞り込んだほうが良いと思う。
- 【宇佐見委員】キーワードが漠然と広がっている印象を受ける。分野を絞った方が集約しやすいと思う。
- 【事務局】まずは、アンケート等からキーワードを洗い出し、最終的には分野別でまとめていく。
また、鈴木先生にお願いしているCS調査の結果を踏まえながら、重点施策を組み立てていきたい。
- 【北平委員】高校生アンケートの結果を見ると、障がい者に対して偏見を持っている子がいるということが分かり悲し気持ちになった。高齢者や障がい者、子どもなどを含めて、様々な人が認め合えるようなまちづくりが必要ではないかと改めて感じた。
- 【野瀬委員】今回の将来像には「満足度」や「愛着度」が高まる要素を組み込んでいくべきだと思う。
- 【岡田委員長】北海道の人は全国と比較して、地元へ定着する傾向が高いが、白老町は今回の高校生アンケートの結果を見ると町へ定着する傾向が弱い。何とかしていかなければならない。

4. その他 ※今後のスケジュールについて

○事務局から説明

- 【宇津宮委員】町民意識調査が2年に1度の頻度で実施されているが、町の進展具合を見ると、この頻度は適切ではないと感じる。もう少し期間をおいて実施しても良いのではないか。
- 【事務局】次回実施にあっては、ご意見を踏まえながら検討していきたい。
- 【岡田委員】過去に実施した意識調査の対象者と今回の対象者とで重複があるか。
- 【事務局】配慮はしているが、無作為抽出の都合上、重複することもある。

5. 閉会